「ながはま御坊表参道」の正面にある長浜御坊大通寺の山門（大門）。二重の大きな屋根を持ち、左右に山廊（さんろう）と呼ばれる建物がある。

Walk On
ウォークオン

伝説と歴史の舞台を歩く

大通寺

お花きつねが住む長浜の〝ごぼうさん〟

「ごぼうさん」の愛称で親しまれている長浜別院大通寺（真宗大谷派）。門前の「ながはま御坊表参道」商店街に、四肢を広げたユニークな〝お花きつね〟のオブジェがある。大通寺に昔から住むというきつねの昔話にちなむものだ。

表参道の米川に架かる針屋橋の欄干もきつねの頭と尻尾の形をしていて、傍らに設置された音声ガイドで昔話を聞くことができる。

その話は、江戸時代初期の長浜御堂（のちの大通寺）の移転問題に関わる。御堂はもともと旧長浜城内にあったが、現在地の石田屋敷跡に移転する際、移転派と城内派が対立し、京都の本山で決めてもらうことになった。先発した城内派が野洲川まで来ると、急な夕立で川止めに。仕方なく堤防の茶店で休息すると、「お花」という娘が手厚くもてなしてくれた。ようやく川が渡れるようになり、急ぎ京都に着くと、後発の移転派がすでに本山の許可を得て帰るところ。がっかりした城内派の一行が野洲川まで戻ると件の茶店はなく、娘もいなかった。移転に賛成だった石田屋敷のきつねの仕業だったのだろうか…。

お花きつねにまつわる話は他にもあり、民話として語り継がれている。大通寺の門前町として発展してきた長浜の人々の「お花さん」を愛する思いが伝わってくるようだ。

DATA 長浜市
- 歩行距離▶約2km
- 歩行時間▶約40分

お花きつねは昔から大通寺の大広間の天井に住んでいるといわれ、広間には梯子（はしご）が掛けられている。「お花さん」は大通寺を火災から守っているともいわれていて、この梯子をのぼって油揚げをお供えする人があとを絶たないとか。拝観の際には梯子を探してみては？

お花きつねのオブジェ

モデルコース

JR長浜駅 10分 ながはま御坊表参道・お花きつねオブジェ 2分 針屋橋 3分 大通寺 10分 黒壁ガラス館 10分 JR長浜駅

※移動時間はあくまでも目安です。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！
http://www.keibun.co.jp

“Walk on”とは
「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。